



平成 20 年 4 月 22 日

各 位

会 社 名 株式会社 東日カーライフグループ  
代 表 者 名 取締役社長 永 安 省 三  
( コード番号 8291 東証第一部 )  
問 合 せ 先 広報・IR グループマネージャー 染谷伸郎  
( T E L 0 3 - 5 4 9 6 - 5 2 3 4 )

当社子会社の特別損失の発生および業績予想の修正に関するお知らせ

当社の連結子会社である東京日産コンピュータシステム株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：齊藤学）は、別添資料のとおり平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）において特別損失が発生することとなりました。また、同社は平成 19 年 11 月 16 日付「平成 20 年 3 月期 中間決算短信」にて公表いたしました業績予想を修正いたしましたので併せてお知らせいたします。

本修正により当社の連結業績に与える影響は、特別損失として、のれんの減損損失を 350 百万円計上する見込みです。

なお、当社の平成 20 年 3 月期の連結業績予想数値への影響は確定次第お知らせいたします。

以上



平成 20 年 4 月 22 日

各 位

会 社 名 東京日産コンピュータシステム株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 齊 藤 学  
 (JASDAQ・コード 3316)  
 問合せ先 常務取締役 加 藤 真 男  
 電 話 03-5466-5530(代表)

## 特別損失の発生及び平成 20 年 3 月期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 3 月期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)において、下記のとおり特別損失が発生することとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成 20 年 3 月期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)の業績予想について、平成 19 年 11 月 16 日付当社「平成 20 年 3 月期 中間決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしますので、併せてお知らせいたします。

### 1. 特別損失の発生及びその内容

#### (1) のれんの減損損失(連結)

当社の連結子会社である株式会社キャリアセンターの現在の事業環境から将来の損益状況及び今後の見通し等を勘案した結果、純資産価値の短期的回復が困難との判断に至り、連結業績において、のれんの減損損失として特別損失 637 百万円計上することといたしました。この結果、連結貸借対照表上ののれん残高はゼロとなります。

#### (2) 関係会社株式評価損(個別)

当社の連結子会社である株式会社キャリアセンターの業績等を勘案し、個別業績において関係会社株式評価損として特別損失 689 百万円計上することといたしました。この結果、貸借対照表上の関係会社株式(株式会社キャリアセンター)の残高は 180 百万円となります。

### 2. 平成 20 年 3 月期 連結業績予想の修正等

#### (1) 通期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	9,500	385	380	130
今回修正(B)	9,121	258	263	△580
増減額(B-A)	△379	△127	△117	△710
増減率	△4.0%	△33.0%	△30.8%	—
(ご参考)前期実績 平成 19 年 3 月期(通期)	9,195	315	348	162

(2) 修正理由

情報関連事業においては、第3四半期の苦戦による低迷を、受注拡大・早期確定、早期納品・検収等の様々な施策により、第4四半期にて巻き返しを図ってまいりましたが、十分に取り返すまでには至りませんでした。サービスビジネスにつきましては、売上構成比が半分を占めるまでになりましたが、ハードウェアビジネスは依然厳しい価格競争状況にあり、利益率の低下は予想以上に厳しい状況となっております。人材派遣事業においては、稼働スタッフの増加に重点を置き事業活動を展開し、新事業所の開設等の投資を行ってまいりました。しかしながら、需要は十分あるものの、人材確保面で厳しい競争状況にあること、また短期的な派遣業務が多いことにより安定的な収益確保まで至らず、投資コストの回収まで至ることができませんでした。

これらの結果、当社グループの売上高は9,121百万円(前回予想比:379百万円減)、営業利益は258百万円(前回予想比:127百万円減)、経常利益は263百万円(前回予想比:117百万円減)となる見込みであります。

当期純利益につきましては、「1. 特別損失の発生及びその内容」に記載のとおり、当社単独決算において関係会社株式評価損の計上に伴うのれんの特別損失計上により、580百万円の損失(前回予想比:710百万円減)となる見込であります。

3. 平成20年3月期 単独業績予想の修正等

(1) 通期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	7,600	380	375	130
今回修正(B)	7,307	282	287	△608
増減額(B-A)	△293	△98	△88	△738
増減率	△3.9%	△25.8%	△23.5%	—
(ご参考)前期実績 平成19年3月期(通期)	7,461	338	373	191

(2) 修正理由

売上高については収益力のあるサービスビジネスへと順調にシフトし、サービスビジネスが売上高の半分を占めることができました。しかしながら、第3四半期における落ち込みを十分カバーできず、売上高は7,307百万円(前回予想比:293百万円減)となる見込みであります。営業利益及び経常利益につきましては、売上高の減少の他、ハードウェアビジネスの利益率の低下により、営業利益は282百万円(前回予想比:98百万円減)、経常利益は287百万円(前回予想比:88百万円減)となる見込みであります。

当期純利益につきましては、「1. 特別損失の発生及びその内容」に記載のとおり、関係会社株式評価損の計上により、608百万円の損失(前回予想比:738百万円減)となる見込みであります。

なお、期末配当金につきましては変更ありません。

(注) 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上